

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校

1. 事業名称

相互理解のための日本語教育体制整備推進事業

2. 事業の目的

「生活者としての外国人のための日本語事業」においては、日本語習得という言語面だけではなく、彼らを日本の社会へどのように「繋ぐ」ことができるかが大きな事業目的となってくる。「繋ぐ」ためには、外国人への日本語教育はもちろんのこと、彼らが出来るだけ摩擦が少なく日本社会に入れるように日本社会の常識・習慣・マナーなどを伝えるだけでなく、日本人が外国人を知り、異文化理解することも

重要なことである。そして、日本人側が外国人を隣人として受け入れ、外国人側は、日本社会に積極的に

に関わる必要がある。本事業では、外国人、日本人双方に働きかけることで、相互理解を促進し、外国

人と日本人が繋がり、外国人が日本人への依存型ではなく、互いに助け合う社会を作り上げるため

3. 事業内容の概要

本校では南米系外国人学校として、外国人が多く集う学校現場を拠点とし、日本人と外国人がお互いを知る機会を設け、日本人＝支援者、外国人＝受益者ではなく、双方が協力し合える活動を考え提供する。また、学校現場で日本人とポルトガル語圏及びスペイン語圏の外国人との相互理解に日々格闘しているノウハウを生かし、日本人が彼らをより理解できるように、専門家や外国人と日々接している経験豊富な者、また、日本語能力があり、社会参加を果たしている外国人などに取組に参加してもらうことにより日本人と外国人の相互理解を促進させる。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年6月5日 (木) 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア 学校	坂田 英夫 太田 俊樹 松本 雅美 岡 則子	取組内容の検討	取組内容についての説明・検討・ 意見交換
2	平成26年2月25日 (水) 15:00～17:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア 学校	坂田 英夫 太田 俊樹 石塚 良明 松本 雅美 岡 則子	取組内容の報告	取組内容についての報告・連携体制に ついての意見交換

5. 取組についての報告

○取組1：地域課題実行委員会設置

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
浜松市内の日本語教育の体制整備をさらに拡大・充実させるために、外国人住民を含む様々な立場の方々がそれぞれの立場や観点から地域の課題について意見を交換し、対応策について協議する
- (2) 取組内容
自治体・地域自治会・学校関係者・企業関係者・ペルー、ブラジルコミュニティー等様々な立場の方々による地域課題検討実行委員会を設置する。実行委員会において、地域課題と同時に、本事業で取り組む活動を継続的な実施に向けた体制整備の観点から検討する。受け入れる側、受け入れられる
- (3) 対象者
自治体・自治会・教育関係者・企業関係者・外国人
- (4) 参加者の総数 20人
出身・国籍別内訳
- | | | | |
|------|----|--------|-----|
| 中国 | 人 | インドネシア | 人 |
| 韓国 | 人 | タイ | 人 |
| ブラジル | 2人 | ペルー | 1人 |
| ベトナム | 人 | フィリピン | 人 |
| ネパール | 人 | 日本 | 17人 |
- (5) 開催時間数(回数) 4時間 (全 2 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年7月2日 14:00～16:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア 学校	15人	ブラジル(1人)、ペルー(1人)、日本人(13人)	地域課題検討・連携体制構築	地域課題について意見を交換し、対応策について協議する	—	—
2	平成27年2月25日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア 学校	17人	ブラジル(1人)、日本(16人)	地域課題検討・連携体制構築	地域課題について意見を交換し、対応策について協議する	—	—

- (7) 参加者の募集方法
参加対象者には個別にて依頼

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

様々な分野の関係者の方々が一堂に集い、本事業活動のさらなる発展に関しても様々なご意見もいただい、今後のさらなる連携体制構築においては非常に有意義なものであった。

(10) 改善点について

この実行委員会には、様々な分野で活躍されている方々の意見を聞き今後の異文化理解・多文化共生のために何をしていくべきなのかを考える場にしてほしいと思い、次世代を担う日本人・外国人の若者数名に出席してもらったが、彼ら自身が実行委員会の中でたくさんの人と知り合い、様々な意見を聞くことができ非常に勉強になったと述べている。若い力を有効活用するためにはより多くの若者にこのような場を提供する必要がある。

○取組2: 外国人と日本人の相互理解交流

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本人と外国人が交流できる場を提供することで、日本人と外国人を繋ぐ。また、外国人に情報・知識を紹介することで、彼らが日本社会に、より受け入れられやすくする。

(2) 取組内容

1. 学校現場を拠点に、文化交流・イベント交流など日本人と外国人が協働でき、それによって、相互理解・日本語習得が可能となるような活動を計画・実施する。
2. 防災訓練・交通ルールなど外国人が必要な情報を提供し、その際に必要な日本語が習得できる活動を計画・実施する。
3. 平成24年度の事業で立ち上げた地域住民による「絵本読み聞かせ」

(3) 対象者 外国人・日本人

(4) 参加者の総数 147 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	76人	ペルー	33人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	38人

(5) 開催時間数(回数) 50時間 (全24回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年6月12日 9:30～11:30	2時間	浜松市西区	26名	ブラジル(20名)日本(6人)	文化体験・交流活動	地元の米農家の方に協力していただき、苗付け体験をしながら、日本人と交流する。	吉田 和子	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
2	平成26年8月9日 8:30～11:30	3時間	外国人学習支援センター	23名	ブラジル(4人)ペルー(12人)日本(7人)	文化体験・交流活動	茶道体験。道具の使い方から作法・お点前までを学び、体験する。	裏千家淡交会浜松支部・松浦 圭子	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
3	平成26年8月9日 12:00～14:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	20名	ブラジル(10名)ペルー(10名)	交通安全教室	車の運転マナーや交通ルールを親子で学ぶ。特に乗車時のチャイルドシート利用の促進や、クラクションの使い方など自国と日本との違いを学習。	片野 幸子	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
4	平成26年8月9日 14:00～16:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16名	ブラジル(12名)ペルー(4名)	防災教室	食料の備蓄量と非常食について学び、火・水道が使えない状況でいかに食を確保するか考える。	鈴木 直之	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
5	平成26年9月15日 10:00～12:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	23名	ブラジル(23人)	防災教室	災害伝言ダイヤル紹介、体験可能期間の説明。その後スマートフォンを使用しサービス体験	NTTドコモ・鈴木 直之	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
6	平成26年9月18日 8:45～9:45	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	23名	ブラジル(17人)ペルー(6人)	交通安全教室	歩行者のマナーや交通ルールを学ぶ。	片野 幸子	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
7	平成26年9月23日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	22名	ブラジル(12名)ペルー(10人)	防災教室	災害時に備え、自分の身元や家族の情報を記した防災カードを日本語で作成。	鈴木 直之	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
9	平成26年10月10日 10:30～11:30	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13名	ブラジル(13人)	職業講習会	日本で就職までの流れ・働く上でのマナーを学習。	柿畑 新也	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
8	平成26年10月10日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	16名	ペルー(13人)、日本(3人)	119番通報訓練、心肺蘇生講習	最低限伝えなければいけないことを日本語で言う練習。ロールプレイ。また、AEDの基礎知識、救命処置の流れと日本語での助けの求め方、心臓マッサージとAEDの使用訓練。	浜松市西区消防局・鈴木 直之	出野 利明 カイヤ マリステラ 芦澤 美香
10	平成26年11月3日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	30名	ブラジル(17人)ペルー(12人)、日本(1人)	薬物講習会	薬物の基礎知識、ドラッグ勧誘の常套句を学び、巻き込まれないようにロールプレイングを実施。	高林 昇	芦澤 美香 カイヤ マリステラ
11	平成26年11月10日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	26名	ブラジル(19人)ペルー(5人)、日本(2人)	薬物講習会	自分だけでなく、街中に潜む危険に子どもが巻き込まれよう、注意すべき点を学ぶ。	浜松中央署	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
12	平成26年11月22日 11:00～14:00	3時間	ムンド・デ・アレグリア学校	30名	ブラジル(17人)ペルー(13人)	文化体験	書道体験。漢字学習をした後、好きなことばをとめ・はらいいはねに注意して日本語で書き、持ち帰る。	松浦 圭子	出野 利明 カイヤ マリステラ 芦澤 美香
13	平成26年11月22日 14:00～16:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	20名	ブラジル(10人)ペルー(10人)	防災教室	災害に関することばをゲームを通して日本語と母語の両言語で確認。	鈴木 直之	芦澤 美香 ヨシサト サラ

14	平成26年11月24日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	26名	ブラジル(15人)ペルー(11人)	防災教室	津波・地震の情報のキャッチの仕方・ニュースから得る災害に関する情報を学ぶ・津波注意報、津波警報、大津波警報など	鈴木 直之	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
15	平成26年12月12日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	22名	ブラジル(22人)	防災教室	避難所の基礎知識、段ボールを使った簡易椅子づくり。災害時に役立つグッズを身の回りのものを使って作成。	鈴木 直之	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
16	平成26年12月19日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	12名	ブラジル(11人)日本(1人)	防災教室	ガラスの飛散防止や家具の固定など、家でできる減災方法を考える。また、ゴミ袋を使ったレインコート・防寒服づくり。災害時、身の回りのものを代用し必要なものを確保する方法を考える。	鈴木 直之	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
17	平成26年12月23日 13:30～15:30	2時間	外国人学習支援センター	11名	ペルー(11人)	防災教室	今までの知識をもとに、ひとりずつ災害に関する啓発ポスターを作成。	鈴木 直之	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ 芦澤 美香
18	平成27年1月6日 12:40～15:40	3時間	雄踏文化センター	21名	ペルー(9人)ブラジル(5人)日本(7人)	文化体験・交流活動	彩り・栄養バランスを考えられた和食のお弁当づくりに挑戦。	芦澤 美香	カイヤ マリステラ
19	平成27年1月9日 9:00～12:00	3時間	ムンド・デ・アレグリア学校	21名	ブラジル(12人)ペルー(9人)	文化体験	書き初め体験。とめ・はね・はらいに注意して日本語を書く。	松浦 圭子 出野 利明	マルテルギジェルモ カイヤ マリステラ
20	平成27年1月12日 9:00～12:00	3時間	外国人学習支援センター	28名	ブラジル(21人)ペルー(7人)	文化体験	風づくりに挑戦。ゴミ袋やストローなど手軽な材料を使用。その後、自身が作った風を揚げる。	出野 利明	マルテルギジェルモ カイヤ マリステラ
21	平成27年1月19日 10:30～12:30	2時間	外国人学習支援センター	22名	ブラジル(7人)ペルー(8人)日本(7人)	読み聞かせ	やさしい日本語を使ったオリジナル本の読みきかせや手作りカルタ体験。	芦澤 美香	マルテルギジェルモ カイヤ マリステラ
22	平成27年1月21日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	40名	ブラジル(17人)ペルー(15人)日本(8人)	職業講習会	美容師や寿司屋などの職業紹介の後、海苔巻づくりに挑戦。	飯田 明男	マルテルギジェルモ カイヤ マリステラ
23	平成27年2月27日 14:00～15:00	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13名	ペルー(13人)	文化体験	日本語で絵本読み聞かせ・折り紙等日本文化を体験	芦澤 美香	マルテルギジェルモ カイヤ マリステラ
24	平成27年3月4日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11名	ブラジル(7人)日本人(4人)	防災教室	避難所運営ゲーム[HUG]を使用し、避難所では様々な国籍・年齢・事情の人が集まっていることを知る。またマナーを学ぶ。	鈴木 直之	芦澤 美香 マルテルギジェルモ

(7) 参加者の募集方法

1. チラシ配布
2. 外国人学習支援センターに募集案内掲示
3. ネットワークを使用し、電話で募集を案内

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

防災訓練・交通安全教室などは継続して実施してきているため、災害ボランティアコーディネーター連絡会・消防署・警察署・NTTドコモなど、本活動を通して様々な所との連携体制を構築することができている。また、文化体験・交流についても活動をととして連携の輪が広がっているが、今年度は24年度 of 取組で連携し、継続して交流活動を実施してきた静岡県立大学の学生さんたちが、自ら企画・実施してくれた料理教室を実施することができた。

(10) 改善点について

防災訓練に関しては、東日本大震災後は非常に関心の高かったが、外国人の中で時間と共に関心が薄れていくことも事実であるため、さらに多くの人に参加を呼びかけ万が一に備える必要がある。文化体験・交流に関しては、今後も外国人に関わったことのない日本人の方々にも積極的に声をかけ参加を呼び掛けていくことが必要である。

○取組3:これからの地域を担う人材育成のための講習会及びワークショップ開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本人と日本語能力のある外国人が共に異文化理解・多文化共生について学べる機会を創出することで、日本人は外国人への理解を促進し、外国人は日本社会に適応できるよう促し、日本社会の中で活躍できる第二世代の人材を育成する。また、日本語能力のある外国人が、これから日本語を学習する外国人を支援する体制を構築する。

(2) 取組内容

日本人、日本語能力のある外国人を対象として、専門家や外国人と日々接している経験豊富な者、或いは実社会参加を果たしている外国人などを招聘し、講演会を開催する。また、日本人と外国人相互のワークショップを計画・実施する。講演会で日本人・外国人共多文化共生・異文化理解のための理解を深め、ワークショップにおいては、協働作業を実施し、これから日本語を勉強する外国人に役立つような成果物作成を目指す。

(3) 対象者 日本人・外国人(日本語レベル中上級以上)

(4) 参加者の総数 109 人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	人	キューバ 1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	21人	ペルー	14人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	72人	

(5) 開催時間数(回数) 20時間 (全 10 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年6月25日 10:30～12:30	2時間	外国人学習支援センター	31名	日本(21人) ブラジル(8人)、ペルー(2人)	講習会	地域に住む外国人と日本人との異文化理解に関する講習会	松本 雅美	岡 則子
2	平成26年7月16日 12:30～14:30	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19名	ブラジル(5人)、日本(6人)、ペルー(8人)	講習会	地域に住む外国人と日本人との異文化理解に関する講習会	松本 雅美	岡 則子
3	平成26年8月1日 13:00～15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	20名	日本(9人)、ブラジル(7人)、ペルー(3人)、中国(1人)	講習会	地域に住む外国人と日本人との異文化理解に関する講習会	松本 雅美	岡 則子
4	平成26年8月26日 19:00～21:00	2時間	浜松市青少年の家	28名	日本人(17人)、ペルー(3人)、ブラジル(8人)	講習会	第二言語習得研究と地域の日本教育についての講習会	坂本 正	岡 則子
5	平成26年8月28日 13:00～15:00	2時間	外国人学習支援センター	31名	日本(21人) ブラジル(2人)、ペルー(8人)	講習会	地域に住む外国人と日本人との異文化理解に関する講習会	松本 雅美	岡 則子
6	平成26年9月8日 11:30～13:30	2時間	外国人学習支援センター	26名	日本(15人) ブラジル(6人)、ペルー(5人)	講習会	地域に住む外国人と日本人との異文化理解に関する講習会	松本 雅美	岡 則子
7	平成26年9月9日 19:00～21:00	2時間	三ヶ日青年の家	29名	日本(15人) ブラジル(2人)、ペルー(9人)	ワークショップ	薬物に関する知識を地域に住む外国人に広く学んでもらうため、日本人向けの講習内容をスペイン語に直す	松本 雅美	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ
8	平成26年9月10日 10:00～12:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	26名	日本(15人) ブラジル(2人)、ペルー(9人)	ワークショップ	薬物に関する知識を地域に住む外国人に広く学んでもらうため、日本人向けの講習内容をスペイン語に直す	松本 雅美	カイヤ マリステラ ヨシサト サラ
9	平成27年1月16日 15:00～17:00	2時間	外国人学習支援センター・雄踏グラウンド	26名	日本(15人) ブラジル(2人)、ペルー(9人)	ワークショップ	薬物に関する知識を地域に住む外国人に広く学んでもらうため、日本人向けの講習内容をスペイン語に直す	松本 雅美	カイヤ マリステラ マルテル ギジェルモ
10	平成27年2月23日 9:00～11:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16名	キューバ(1人)、ブラジル(8人)、ペルー(3人)、日本(4人)	講習会	母語の維持と日本語教育についての講演会	松本 雅美	ヨシサト サラ

(7) 参加者の募集方法

(外国人) 外国人コミュニティに募集案内

外国人ネットワークを利用し募集案内

(日本人) これまで連携体制を構築してきている団体に案内

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本人・外国人共に異文化・多文化共生について知識を得ることができ、ワークショップにおいても協力しながら活動できた。また、日本人と外国人が活動を共にした中で、日本人側が在日も長く日本語能力が高く、日本語を共通言語として使用できる外国人でも、考え方・捉え方の違いがあることから、体感できたことはこの取組の大きな成果である。

(10) 改善点について

日本人と外国人が考え方の違いはあるもののお互いに妥協点を見出し、積極的な協力体制を構築していくことができるような取組内容を考えていく必要がある。

6. 事業に対する評価について

「生活者としての外国人のための日本語事業」においては、日本語習得と言語圏だけではなく、彼らを日本の社会へどのように「繋ぐ」ことができるかが大きな事業目的となってくる。「繋ぐ」ためには、外国人への日本語教育はもちろんのこと、彼らが出来るだけ摩擦が少なく日本社会に入れるように、日本社会の常識・習慣・マナーなどを伝えるだけでなく、外国人を取り巻く日本人が外国人を知り、理解することも重要なことである。そして、日本人側が外国人を隣人として受け入れ、外国人側は、隣人として日本社会に積極的にかわる必要がある。

(1) 事業の目的

本事業では、日本語教育を広義に捉え、外国人だけでなく、日本人へも双方に働きかけることで、相互理解を促し、外国人と日本人が繋がり、外国人が日本人への依存型ではなく、互いに助け合う社会を作り上げるため、日本語教育体制整備推進事業を実施し、定住外国人の円滑な社会参加を目指すことを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

プログラムBの事業を継続して実施してきたことで、教育機関や地域との連携は確実に広がってきている。今年度は実行委員会を設置し、自治体・自治会・教育関係・企業・外国人など様々な方々と意見を交換することができたことは今後の連携体制をさらに広げる上で非常に有意義なものとなった。取組3においては、日本人と日本語能力のある外国人が異文化理解・多文化共生のために何が必要なのかを考え、双方が協力することで、日本語教育の必要な外国人にどのようなアプローチをしていくことがいいのかを考えることができた。実行委員会には、第2世代を担う日本人の学生や日本語能力のある外国人の学生にも参加を呼びかけ、様々な分野の方々の意見を聞くことで彼らが次世代を担う人材として異文化理解・多文化共生を考え、どのように社会参加をしていけばいいのかをいく上で貴重な経験になったようである。取組3においては、日本人・外国人共に異文化・多文化共生について知識を得ることができ、協力しながら活動できた。

(3) 地域における事業の効果、成果

外国人集住都市である浜松では、日本語能力のある第2世代の外国人の若者が少なからず出てきている。本事業においては、次世代を担う日本人と外国人が共に活動し、本事業をより発展させる活動に取り組んできている。大学との連携体制を構築しながら、日本語能力のある外国人と日本人が協力して活動を実施し、彼らが取組の中で活躍する姿を見ることによって、地域在住の日本人の外国人に対する理解がより促進され、連携体制整備もよりスムーズに構築できてきている。また、彼らが日本語学習の必要な外国人を支援し、ロールモデルとなる形が出来つつある。

(4) 改善点, 今後の課題について

日本語能力のある外国人を支援者として本事業に参加させ、活動を企画・運営していくことが、さらなる日本人社会との連携体制を構築する上で重要であるが、在日が長く、日本語能力がある外国人でさえ、日本人と活動を共にしていく上で、日本の常識・マナーなどの理解が足りず、日本語能力があるがゆえに誤解を受けることも少なくない。今後は、彼らが日本社会で無意識のうちに誤解を受けないようにするためには、本事業の取組の中で、日本人と共に活動自体を計画・運営する機会を創出し、日本人と共に行う活動の中で日本社会のルール・マナー・習慣を学習していく必要がある。

i 現状

日本語能力のある外国人が活動に参加し、日本語の学習の必要な外国人を支援することは、非常に効果のあることであるが、彼らは言語に関してはほとんど問題がなくても、まだまだ日本社会の常識・ルール・マナー・習慣などを理解している者は少なく、日本語能力がある故に日本人に誤解を受けることがあることが活動の中でも多く見受けられた。

ii 今後の課題

日本語能力のある外国人には、今後の取組の中で日本社会の常識・ルール・マナー・習慣を学習していく活動の創出が必要である。また、日本語能力のある外国人がこれから日本語を学ぼうとしている外国人を支援できるような体制作りを引き続き考えていく必要がある。

iii 今後の活動予定

これまでの築いてきた連携を基盤として、本事業委託団体がファシリテーター的な役割を担い、第2世代を担う日本人と日本語能力のある外国人が自ら企画・運営しながら、地域住民の方々と折衝を行い、成果物を発表できるような取組を創出する。

(5) その他参考資料